平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム さくら （1階ユニット）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0391100096		
法人名	（株）ブルーム		
事業所名	グループホームさくら （1階ユニット）		
所在地	〒026－0055 釜石市甲子町5－2－4		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0391100096-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020－0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの人権を尊重しながら、家庭と同じように、安心して過ごせる。地域と利用者、家族が関わりを図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営に当たっては、法人代表の社会福祉に対する熱意を理念として掲げており、「住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域とのかかわりを大切に支援する。高齢者の尊厳ある生活を重視し、生きがいと喜びを持った穏やかな生活を大切にする。」という理念の実践に向けて取り組んでいる。開所して1年と間もないが、町内会に加入しており、春秋の町内の除草、盆踊り、運動会等町内会の行事に積極的に参加し、地域の一員として交流を深めている。また、自らは地域住民を招いて夕涼み会を開催して親睦を深める一方、広報を発行するなど事業所の知名度向上にも取り組んでいる。火災や地震、水害等に備える防災対策としては、町内会と地域協定を結んでおり、町内近隣住民の参加を得て、春秋2回の総合防災訓練を実施している。また、総合防災訓練の講評結果をすぐに運営に反映させるなどその取り組みは先進的である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

平成　25　年度

2　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　グループホーム　さくら　（1階ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目に付く所へ張り出し、職員間で確認しているが、開設1年目でもあり、なかなか実践に結びついていない状況である。	理念は、ホームの代表が開設に当たり福祉に対する熱意を文章として纏めたものである。事務室に掲示し、毎日、午後に開催するミーティングで管理者・職員で復唱し、確認しながら実践に向けて取り組んでいる。	理念が長文だと職員の理解と共有、実践も難しくなる。理念は理念として、理解しやすい簡潔な目標設定などチームでの話し合いを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会広報が毎月届く為、町内会の行事には、積極的に参加させて頂いている。日頃、散歩や洗濯干しの時でも、近所の方に声を書け、交流に努めている。	自治会に加入しており、町内会だよりが毎月届くほか、春秋の清掃活動、盆踊り、運動会に職員と利用者が参加し、ホーム行事の際には、町内に職員が案内を配り夕涼み会、年2回の消防訓練などに参加を得るなど、ホームの理解を得ながら積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員に認知症の勉強、理解を深めてもらう事を重点に取り組んだ。地域の人々に向けては、今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議が12月に、開催されたばかりだが、話し合われた意見や出された意見は。今後の取り組みに反映させていきたい。	開所時より2ケ月に1回の開催で計画していたが、実施できず12月に第1回目を開催している。行事や利用状況、消防訓練の実施報告や、質疑応答が行なわれたが、今後は2ヶ月ごとに開催し、会議の有意義な活用に取り組んでいきたいとしている。	会議の必要性、委員の役割を理解し、委員から意見・アイディアを引き出し、サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と個々の関わり以外は、密に連絡を取っていたとは言えず、今後の課題と思われる。	地域包括支援センターの担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の状況を理解してもらっている。また、行政の各担当とは認定調査や生活保護対象者の日常の生活面で連絡を密に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解を深める為、勉強会は行ってきた。体の痒みの為、血だらけになるほど、ひっかき傷を作る行為が見られ、やむを得ず、つなぎ服を着用している件が1件ある。	本社の研修委員会で、身体拘束について年1回全職員を対象に研修し、言葉の拘束については、接遇研修を年2回実施し、職員間で注意しあいながら対応している。痒みがひどく、つなぎ服の利用者がいるが、家族に説明し了解を得て実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回の研修会で理解を深め、個々に注意し、対応の仕方など話し合いも行ってきた。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を利用している入所者は,居るが、職員が制度を充分に理解するには、今後も研修を重ねていく必要があると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。又、不安や疑問点も尋ねているし、いつでも面会に来てくれるように、話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望などは、その後の対策を含め、運営会議で、公表、及び議事録を家族に配布する。	利用者からは日常生活の関わりの中で把握に努め、家族については行事や面会時等をその機会としている。職員の言葉遣いや対応面での目配り、気配りの大切さについて職員で話し合い、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、管理者が運営会議に参加し、運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。、今後の反映に繋げていきたい。	毎日の申し送りで提案を聞く機会をつくり、利用者同士のトラブルを避けるため座席の配置、清拭のタオルの保管場所など改善して運営に活かしている。必要によっては、毎月開催される本社の会議に提案し、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	レクレーションやその後のご苦労さん会、又、その他親睦会などで、交流を深めたり、リフレッシュに努めている。又、各職員が向上心を持って働けるように、職場の環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、社内研修（介護技術研修会等）を定期的に実施しているし、業務内でも個々に応じた指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通して、同業者との交流には努めている。只、相互訪問までには、至らず、今後の課題である。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共に一緒に居る時間を過ごし、話しやすい雰囲気の中で、本人の話を伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時はもちろん、面会に来たときなど、ご家族と話をする機会を設け、一緒に解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者共に時間をかけ、話を訊いた上で、必要としているサービス支援の決定に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に一方的な立場に立たぬよう念頭におき、対応しているつもりではいるが、まだまだ対応不足ともいえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事等を通して、触れ合う機会を作ったり、本人の生活暦を家族に訊き、対応に取り入れようと、努めているが、全員においては、不十分と言える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や地域の方が、グループホームへ来て触れ合う機会はあった。又、インフルエンザの季節になってもすぐに面会制限せずに会えるように、取り組んだ。只、こちらから出向くことはなかった。今後の課題といえる。	入居前に利用していた施設の職員や近所の友人の訪問があるほか、理美容院の馴染みもある。また、買い物に同行するスーパーや商店、2・3ヶ月ごとに訪問を依頼している理美容院など新たな馴染みもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動（歌や体操）、行事等を通して、孤立しないよう対応には努めていたが、日々の生活の中で難しい面もあった。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入信したあとも、毎日職員が面会に訪れ、差し入れをしたりと支援に努めた。また、その後は、家族の相談にのったり、転院時には職員が一緒に内陸まで車で付き添っている。その他、本人のアルバムを作成し家族にも送っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしや希望、意向の把握に努めるようには、努力している。困難な場合でも、健康状態等に合わせ、検討をしている。	普段の会話や趣味活動、買い物などで表情や行動を観察し、個別支援となる散歩や入浴ではできるだけ利用者の希望や思いを聞くようにし、困難な場合は、家族や友人からも聞くようにして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前担当していた、職員や、介護支援専門員に生活状況を聞いたり、直接、家族のほうに訊いたりして、理解に努めてきた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が気付いた事を、カルテや申し送りノートに記入し、全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画に対して、以前の生活状況を踏まえながら、ケースカンファレンスを開き、意見や話し合いを行っている。	入居時に要望を聞いて暫定計画を作成し1ヶ月ごとに、居室担当が中心になって全職員で評価、ケアカンファレンスを行い計画の見直しを行なうとともに、利用者、家族に説明し意見交換して現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに記入した上で、申し送りの時間を設け、日々の変化の状況報告を行い、ケースカンファレンスで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や花見、ドライブ等、外出は、時折実施してきた。又、草刈や散歩等も時間の許す限り行ってきた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	勉強不足もあり、充分に実施できていなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、歯科医師、家族と相談の上、在宅診療につないでいる。必要に応じて外来受診も行っていた。	内科と歯科は協力医があり、内科は月2回の往診、歯科は必要に応じた往診がある。この他はかかりつけの専門医での受診となるが、職員が同行し結果を家族に報告している。また、希望によるかかりつけ医の変更もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状況を把握した上で、看護師につたえるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が毎日、面会に訪れ、看護師や病院のケースワーカー、家族と連絡を取り、情報交換を行っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所でのできることの説明は、行っている。又、主治医が家族に入院の必要性等の相談、話し合いも行ってきた。	契約時に、家族の希望により職員・家族・医療と情報を共有し相談しながら対応することを説明しているが、まだ、看取り経験はない。訪問医との連携で点滴までは対応できる体制にあるが、現状は、医療が必要となれば入院している。	将来的には、職員の研修、看護師の配置など支援できる環境を整備充実して積極的に対応していきたいとしており、今後の取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、消防署の指導による、事故発生時に備えての救急訓練や、応急手当訓練などを実施。応急手当訓練では、職員全員が終了証書を受理している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練時、町内の皆さんと一緒に訓練を行い、確認していた。	町内会と地域協定を結んでおり、自動通報設備により町内会役員にも通報される等体制が整えられ、年2回の消防訓練には町内の近隣班に案内を配り、参加を得て実施している。ホーム独自では毎月、通報、階段器具の使用訓練など繰り返し実施し安全に避難誘導できるよう手順を身に付けている。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、意識して、対応するように個々に心掛けてはいるが、配慮に欠けることもあり、その都度職員同士で、対応について確認しあうように努めている。	人生の先輩として敬意を払い、その人の生活のリズムを把握しながら、入浴支援の着脱では羞恥心に配慮し、トイレの誘導では周囲に気を配り自尊心を傷つけないよう、声がけでは職員同士でも注意しながら支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような、心掛けが不十分と思われる。今後、意識して働きかけていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースの生活で過ごしていることが多いと思われる。もっと希望に沿った機会を増やしていけるよう改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、自分で選んで頂くよう促している。身だしなみには、チェックする機会を作り、配慮するよう、心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に、準備できるように、作業などを分担して、参加するように、努めている。	買い物に利用者も同行し食材を選んだり、希望や体調に合わせた献立の工夫、プランターの家庭菜園や皮むきなど調理でできることを通して楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保が不十分な場合には、ゼリー等を準備したり、工夫するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、現状ではできていない。只、頑固に拒否していた入所者が、声掛けを受け入れてくれるようになった事例も見られた。今後も働きがけは継続していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきりの人以外は、トイレでの排泄を促すように取り組んでいる。	排泄チェック表を作成し、表情や動きなどを観察し周囲に配慮しながら声がけ誘導により、パットの大きさが変わったり紙おむつからリハビリパンツに改善された利用者がいる。なお、コール、手すり、暖房設備を備え車いすも利用でき安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人を把握した上で、献立を工夫したり、日常生活の中で、自力排便を促すように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定を決めて、入浴しているのが現状である。が、個々の健康状態等に合わせ、ゆったり入浴してもらえる配慮は心掛けている。	午後からの入浴で週2回としているが、希望に応じて3回入浴する人もいる。個浴で、衣服の着脱時は、利用者の不安や羞恥心に配慮し、希望により同性介護で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛や体の痛みを訴える人も居る為、日中も臥床する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時、増えたときはノートにも書いて皆に周知している。又服薬の支援と症状の変化については、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に対して、支援しきれていない。今後積極的に取り組んでいきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の状態を見ながら、外出するように心掛けてきた。外出が無理な場合は、本人と日程を相談して、対応してきた。	日常は、近くの洞泉駅やグランドゴルフ場まで散歩をしたり、食材の買い物でスーパーに出掛けている。花見や紅葉の季節にはドライブを兼ねて遠出をし、家族の協力でお盆のお墓参り、外泊、理美容などに出掛け、楽しみや気分転換につなげるよう支援している。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族へ依頼して、お小遣いを預かり、外出の際などに所持し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所で郵送する家族へのお便りの中に、本人が書いた、手紙を送ったりしていた。又、家族から来た電話もすぐに、つなげているし、、又かけさせてもいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節目ごとに季節感を取り入れた環境作りは行っていた。	事業所は2階建てでエレベーターと階段があり、1階ユニットと2階ユニットに分かれている。平面的間取りは同じで、内部も建物周りが耕地のため遮るものもなく明るい。カウンターが低く出入り自由の厨房と一体感のあるホールには、テーブルのほかにソファーや大型のテレビが設置され、小正月行事の水木団子や塗り絵、行事写真や習字を飾り季節感を演出、居心地の良い空間づくりの工夫と配慮がなされ安心感のある場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居室などにも、椅子を用意して、自由に過ごせるように、配慮は心掛けていた。一人になりたい人は、居室で自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、本人の使用していた家具などを持参してもらっている。	押入れを取り付けベッド、タンス、エアコンはホームで設備している。利用者はテレビ、家族の写真、小物入れ、時計、位牌などを持参し飾り付け、職員が一緒に掃除をし清潔を保ち、安心して暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を促せる、構造となっており、又居室がわからない入所者の方に対しては、目印や名前を貼り、対応していた。		